

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 5 月 19 日現在

機関番号：12501

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2014

課題番号：23500305

研究課題名(和文) 実名開示型多世代 SNS におけるコミュニティ活性化要件と世代間特性の解析

研究課題名(英文) An analysis of community activation requirements and generation characteristics of multi generation real-name base SNS

研究代表者

檜垣 泰彦 (HIGAKI, Yasuhiko)

千葉大学・工学(系)研究科(研究院)・准教授

研究者番号：30173131

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円

研究成果の概要(和文)：具体的な SNS の運営にあたっては、たとえ既存のつながりがあるユーザを対象とした SNS であっても、ユーザをより具体的な視点からセグメント化することが有効であり、単に一般的な情報提供や用途を準備するだけでは有効な運営を図れないことが明確となった。セグメント化により、実名開示や世代間の問題も解決される。現実の SNS では、基本的にユーザの拡大に向かうものの、継続的利用を図るうえで、ただ拡大するだけでは有効でないことが実証できた。

研究成果の概要(英文)：If the SNS is based on real community like alumni association, it is important to segment into concrete function for actual operation of SNS. Preparing general function of SNS is not sufficient. Multi generation or real-name problem is solved by the segmentation. The expansion of SNS members is not effective for continuous activity in this case.

研究分野：情報システム

キーワード：SNS 同窓会活動 機能連携 セグメント化

1. 研究開始当初の背景

2007年10月に千葉大学校友会が構築し、現在も運用が続けられている SNS「Curio」は、千葉大学の卒業生、教職員、および在校生を対象とした実名開示型の SNS である。「Curio」の大きな目的は、相互の連携なく離散的に存在していた千葉大学卒業生のコミュニティをインターネット上に移植し、大学との結びつきを強めつつ、活動の活性化を図ることにある。そして「Curio」を研究対象として位置付けた場合、従来から存在していた大学の同窓会活動がインターネット上のコミュニティとしても展開されており、活動条件やメンバーについての共通性が高く相互に比較可能な実社会のコミュニティとインターネット上のコミュニティのペアを設けることが可能となる。また「Curio」の会員が多世代にわたることに注目すれば、インターネット上のコミュニティにおける世代ごとの特性を分析するためのデータも得られる。さらに、実名の開示を重視した運営が行われている「Curio」に関する検討を行うことで、インターネット上の匿名性に関連した意味のある考察を行うこともできる。

本研究の研究代表者および研究分担者は、当初から「Curio」の構築・運営にあたって中心的な役割を果たしてきた。それぞれの専門分野は異なるが、それ故「Curio」を多面的に分析することができる。これまでの「Curio」に関する研究報告は「Curio」の内容を紹介するレベルに止まっていたが、本研究を通じてより学術的な解析・考察を行うことで、インターネット上のコミュニティ構築・運営に関する一般的な指針や示唆を得ることができる。

2. 研究の目的

千葉大学校友会が実際に構築・運営している会員 2,000 名規模の SNS を研究対象として、ネットワーク上に多世代にわたるメンバーを含むコミュニティを構築し、その活性化を図るための指針を明らかにする。具体的には、実社会とインターネット上のコミュニティの相互比較を行うとともに、インターネット利用における世代間の特性を解析する。さらに、インターネット上での匿名性についての考察も行う。

3. 研究の方法

(1) 現状分析

インターネット上のコミュニティである Curio の現状に対して、利用状況、周辺環境、運営状態などについて調査を行い分析した。また、実社会のコミュニティである各学部同窓会の事情の調査・分析を行った。

Curio の現状について

2010年10月時点の会員数は約 2,400 名であり、10 代の学生から定年退職の世代までの幅広い世代にわたる会員を擁している。ユーザの利用申請は本人確認書類の提出を求め

ており、ファックスや郵送で校友会が受け付け処理している。申込者からは手間がかかる、時間がかかる、送料がかかるなどの不満が寄せられている。また、申請を処理する校友会事務局では、手書きの書類から電子メールアドレスを起こすときの精度が問題となっている。

各学部同窓会について

千葉大学は旧制諸学校を包括して新制の総合大学として発足した経緯から、旧制諸学校時代も含めた卒業生の状況を把握しているのは各学部等同窓会である。9 つの学部同窓会を含む 12 の同窓会が学内に存在する。その規模や事情は同窓会によって大きく異なっている。

名簿発行

同窓会の重要な役割は会員の管理である。従来は氏名のほか、住所、電話番号、職業などを管理し、冊子の同窓会名簿を発行してきた。「個人情報保護に関する法律」の全面施行以降、このような詳細な個人情報を管理し、名簿として発行していくことが難しくなった。各同窓会では冊子としての名簿の発行を取りやめる傾向にある。それに伴って、冊子としての名簿の代わりとなる相互連絡の手段が求められている。

会員制サイト

一般的に紙媒体として発行してきた冊子のオンライン化が進んでおり、同窓会が発行する会報についてもオンライン化したいという希望が出てきている。会報の中には同窓会員に限定して知らせたい内容も多く、一般的な Web による公開は向いていない。そのため、各同窓会で会員制のサイトを持つとする動きがある。会員制サイトの運用のためには、ID・パスワードの発行、再発行などが必要であり、同窓会にとっての負担も大きいという問題がある。また、より積極的な情報伝達手段である電子メールを利用した、メールマガジンの希望もある。

(2) 計画策定

現状の分析に基づき、現在の Curio に対してどのような対策・改善が考えられるかを検討した。対象とすべき、具体的なコミュニティを選択し、期間やコストを考慮のうえ、実施可能な計画を策定した。

名簿機能の実装

冊子としての名簿発行が難しくなった各同窓会は、その代替手段を求めている。これに対応するため、各同窓会が管理している卒業生のリストをオンライン化することが考えられる。所属と氏名の一覧が基本であり、旧来の冊子としての名簿に記載していた住所や電話番号は扱わず、連絡の取れる関連情報へのリンクのみとする。

他のシステムとの連携

Curio は OpenPNE ベースであるため、国内で用いられている多くの SNS 同様に、それ自体で日記の機能を持っている。しかし、

Curio で書いた日記は Cuiro ユーザしか読むことができず、また、多くのユーザは自分の Blog や twitter , facebook などを利用しており、そちらで日記を書いている。OpenPNE2 の標準機能として RSS を利用して予め登録した自分の Blog から記事の概要を取り込む機能は持っている。これに加え、twitter や facebook に書き込んだ内容を各ユーザのホームに掲載できる連携機能の実装が考えられる。

同窓会専用スペース

各同窓会は会報などのための独自コンテンツのためのスペースとして同窓会のみがアクセスできる専用のスペースを求めている。現在の Curio のプロフィール中の所属同窓会表記は自己申告であり、これを認証用に使うことはできない。また、各コミュニティはコミュニティ参加者のみにアクセスを制限可能であるが、この機能を使って制限をかけるには、コミュニティ参加時に何らかの方法で所属同窓会の確認が必要になる。厳密に同窓会専用スペースを設けるためには、Curio の会員属性として、そのような同窓会の会員であることを明示する属性の追加が必要となる。その属性情報をもとに、同窓会専用スペースへのアクセスを許可する。同窓会専用スペースや会員属性の仕様については、会報の掲載など共通性の高いものもあるが、活動内容に違いにより、個別カスタマイズが必要な可能性がある。

名寄せ問題

新設した同窓会専用スペースを厳密に運用するためには、そのアクセスを管理する属性フラグを正確に設定する必要がある。各同窓会に所属する会員の情報は各同窓会が所有しており、情報が電子化された後の最近の卒業生については、大学がその情報を効率的に利用できる状態で所持している。また、卒業生によっては複数の同窓会に属している場合もある。これらの情報から正確に所属同窓会を整理するためには、複数の情報源の卒業生情報を一本化するいわゆる“名寄せ”の問題が存在する。これらの情報を正しく把握しているのは最終的には本人のみであるといえる。

登録申請のオンライン化と処理の管理

現状と同じ流れで、現在よりも効率よく処理でき、要望の多いオンライン受付を実現するため、図 1 のような Web ベースの受付ページと管理システムの導入が考えられる。

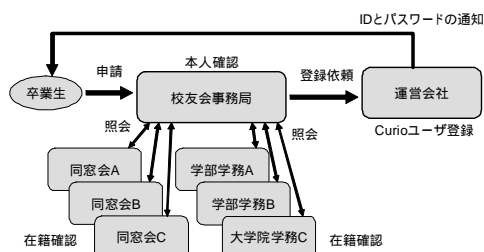


図1 ユーザ登録処理の流れ(案)

クラウド化の構想

これまでの議論では Curio の中に、特別な機能が必要な同窓会について、それを実装していくというアプローチを考えた。この場合、Curio は校友会が運営しており、同窓会独自機能の実装については、それを必要とする同窓会が負担して実装すべき部分である。開発費用的なことを考えると、切り分けが難しい。そこで発想を転換し、Curio の中に同窓会固有のスペースを設けるのではなく、同窓会の会員制サイトの集まりを Curio と定義することが考えられる。各同窓会サイトはそれぞれの同窓会の費用で開発を行なう。それを取りまとめる部分のインタフェースを定義しておき、それも実装することでそれらの同窓会サイトの集まりとして Curio を実現する。

(3) 計画の実施

策定した計画に基づき、必要となる Curio のカスタマイズや方策の実施を試みた

名簿機能の実装

工学部の同窓会では、冊子の名簿は廃止したが、名簿の電子データは維持し続けており、その活用のためここで述べた名簿機能の実装にむけて調整を行った。具体的なイメージが伝わるように図 2 に示すようなプロトタイプを作成した。

他のシステムとの連携

代表的な SNS の一つである facebook との連携機能を実装した。各ユーザのホームに facebook への投稿内容を表示させることができる。また、facebook でおなじみの「いいね」の機能を Curio の近況報告にも実装した。さらに、ユーザの勧誘のため、facebook に

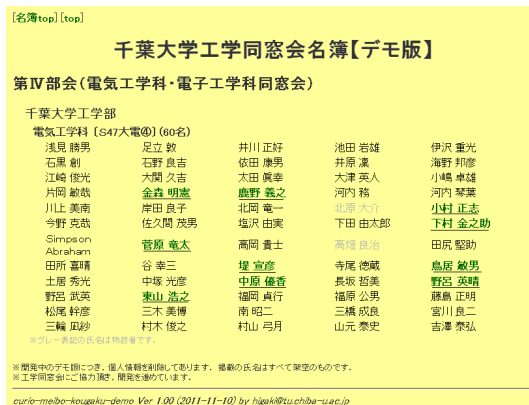


図2 Curio への同窓会名簿の実装(案)



左…さてこちらは大学院生の卒業式！千葉大学にもアカデミックガウンなんでものが合ったことを初めて知り驚きました！ちょっと、着てみたいですね！
中…学部から千葉大学にいた人にとって、研究室のメンバーの同期は三年間共に過ごすこととなります。学部四年の付き合いより強い仲のよさが、表情から伝わってきます。
右…千葉大学のガウンは、大学カラーでも有るガーネットに染められていました。未来でも、先輩方が情熱をもって活躍して下さることを期待しています。

いいね！
♥ 大塚成男さん、他2人が「いいね！」と言っています。

図3 「いいね」の設置



図4 薬学部同窓会会員用ホーム

Curioのページを設けた。

同窓会専用スペース

同窓会機能との連携についても、当初は工学部の同窓会が必要とする機能を実装すべく検討を進めていたが、有限の研究期間内での実現が困難となった。これに代わり、より小規模で小回りの利く薬学部の同窓会から申し出があったため、試験実装の対象を変更した。薬学部の同窓会では、多世代に亘る年代別の理事により理事会が開催されており、その支援機能を必要としていた。具体的には、議事の議決機能を中心に実装した。薬学部のCurio会員がログインした場合は、専用にデザインされたホーム(図4)が表示される。

名寄せ問題

試験実装を行った薬学部の同窓会メンバーについては、厳密な名寄せが必要となるが、学部の特性や、今回の試験実装が限られた人数の理事が対象であったため、今回の研究で実施した範囲では実質的に問題とならなかった。

登録申請のオンライン化と処理の管理

現状の申請手続きのハードルが高く、改善が必要であるとの認識はあるが、図1に示した案の実施のためには、大規模な機能追加と業務内容の詳細な調査が必要であり、研究期間内での実施が期間的・費用的にも困難と判断されたため、小規模な改善のみとした。

クラウド化の構想

クラウド化は効果が期待できる構成であるため、将来に向けて引き続き実現に向けて検討することとしている。

(4) 実施結果の考察

名簿機能の実装

名簿機能を実装するには至らなかった。実装できるだけの電子データを持っている工学部の同窓会においても、検討を行う中で、現状ではこのような形であっても、名簿はすでに持つ必要性がないとの意見も出された。また、整理された電子データを持たない同窓会では、さらに費用がかかるため、実装は難しい。最終的に今回は実現に至らなかった。

facebookとの連携

facebookへの投稿がCurioのホームに自動的に現れるため、Curioの近況報告同様の効果が期待された。実際に連携設定したCurio

ユーザは少数に留まった。連携が有効であるためには、Curioが情報のディレクトリとして機能している必要があるが、名簿機能の実装を見送った影響もあり、この点不十分であったことが原因と考えられる。

薬学部の同窓会専用ページ

カスタマイズ後、2014年7月から薬学部の同窓会の理事会にて利用を開始した。実際に議題をアップ後、投票採決を行った。その後、12月にも同様に利用した。理事会のオンライン決議用に特化したことにより、利用目的がはっきりしているため、活用されている。

実名開示

同窓会専用ページとしての機能を考えた場合、特に理事会の活動については、議決も行うため、実名で参加するのが自然であり、実名開示が問題となることはない。

多世代に亘る構成

現実の同窓会は年配者が中心となって活動している。そこにCurioを導入することで、若い世代が参加することとなり、世代間の問題の一部が解決できた。

機能限定によるSNS機能の分離

今回の研究では、図2に示した名簿機能の実装が行えなかった。この機能は他のSNSとの連携のためのディレクトリともなるべきものである。同窓会機能に特化するなどの機能の限定により、Curio自体がSNS的な機能を持つ必要がなくなり、利用者の好みのSNSへのリンク情報だけが必要となる。実名開示や多世代に亘る問題は、SNS機能に起因しており、この機能を切り離すことで、この問題を解決することができる。利用者は自分の特性にあったSNSで活動することができ、Curioはその活動場所へのポイントを保持すれば十分である。

4. 研究成果

具体的なSNSの運営にあたっては、たとえ既存のつながりがあるユーザを対象としたSNSであっても、薬学部の同窓会の例からみられるように、ユーザをより具体的な視点からセグメント化することが有効であり、単に一般的な情報提供や用途を準備するだけでは有効な運営を図れないことが明確となった。適切なセグメント化により、実名開示の問題や、世代間のコミュニケーションの問題の原因となっている部分を、分離することが可能となる。

現実のSNSでは、基本的にユーザの拡大に向かうものの、継続的利用を図るうえでは、ただ拡大するだけでは有効でないことが実証できた。また、薬学部の同窓会理事会のように、比較的若い世代を古い世代を中心とした同窓会運営に取り込むことができるという世代間の特性を確認できた。実名開示型という特性は、同窓会運営、特に理事会の運営には必須であることが改めて確認できた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計1件)

檜垣泰彦, 桜井貴文, 虎岩雅明, 遠藤啓介, 大塚成男: 千葉大学校友会 SNS「Curio」の現状と今後の計画, 電子情報通信学会技術研究報告, 査読無, Vol.111, No.470, pp.135-140 (2012)

〔学会発表〕(計2件)

大塚成男: 卒業生を主たる対象とした大学独自の SNS の構築と運用, 2012 年度第 18 回 FD フォーラム(招待講演), 2013 年 2 月 24 日, 立命館大学(京都)

檜垣泰彦: 千葉大学校友会 SNS「Curio」の現状と今後の計画, ライフインテリジェンスとオフィスインフォメーションシステム研究会, 2012 年 3 月 9 日, 名桜大学(沖縄)

〔その他〕

ホームページ等

<http://www.chiba-u.ac.jp/sns/>

Curio(千葉大学コミュニケーションサイト)

6. 研究組織

(1)研究代表者

檜垣 泰彦 (HIGAKI, Yasuhiko)

千葉大学・大学院工学研究科・准教授

研究者番号: 30173131

(2)研究分担者

大塚 成男 (OTSUKA, Shigeo)

千葉大学・人文社会科学研究科・教授

研究者番号: 20213770

桜井 貴文 (SAKURAI, Takafumi)

千葉大学・理学研究科・教授

研究者番号: 60183373